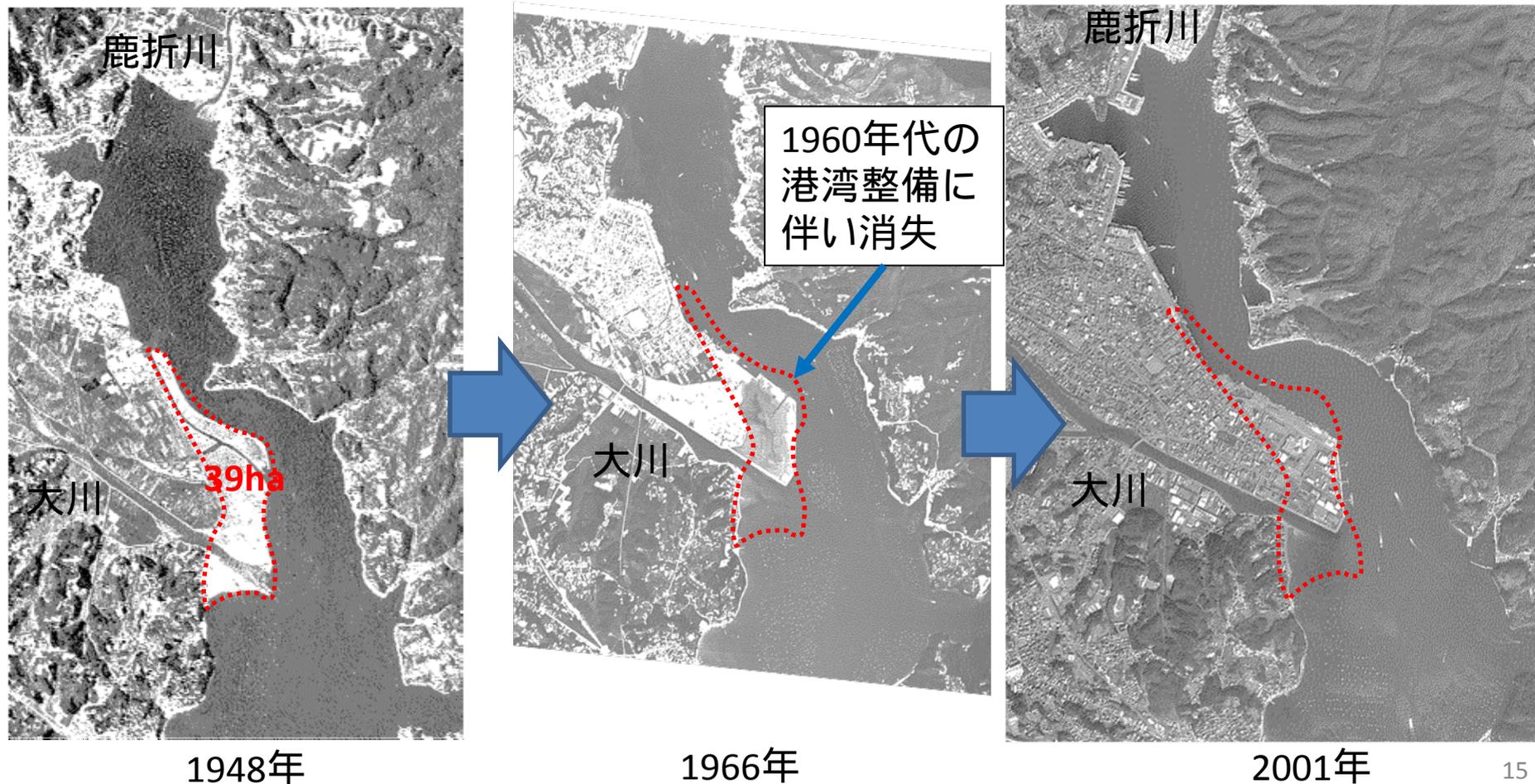


干潟の減少(浄化機能の低下)

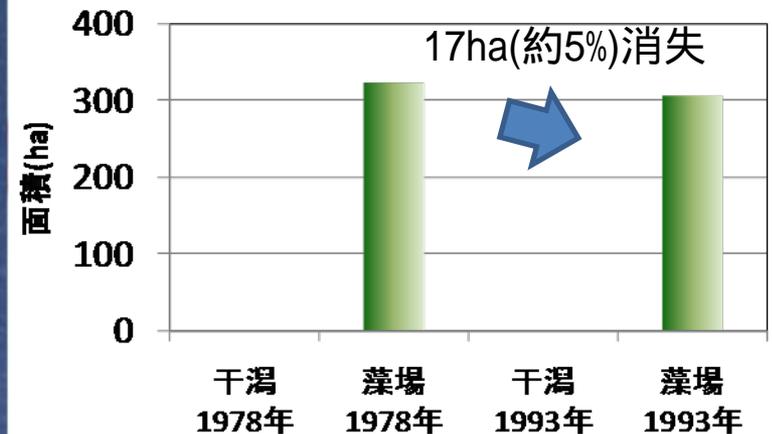
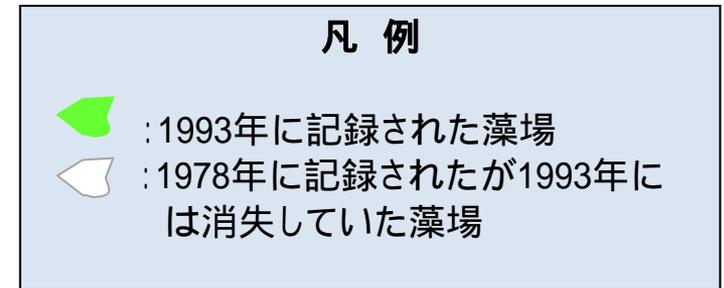
- 1948年には、大川河川河口に約39haの干潟が存在していたが、1960年代の港湾整備に伴い消失している。

航空写真から読み取り



(参考) 藻場の減少 (浄化機能の低下)

- 藻場は湾中央～湾口の沿岸で確認されている。
- 1978年～1993年の間に大島南の藻場が消失している。
- 1970年代後半以降は、藻場は大きく減少していない。
- 消失した藻場が外洋に面しており、湾内の物質循環への寄与は不明

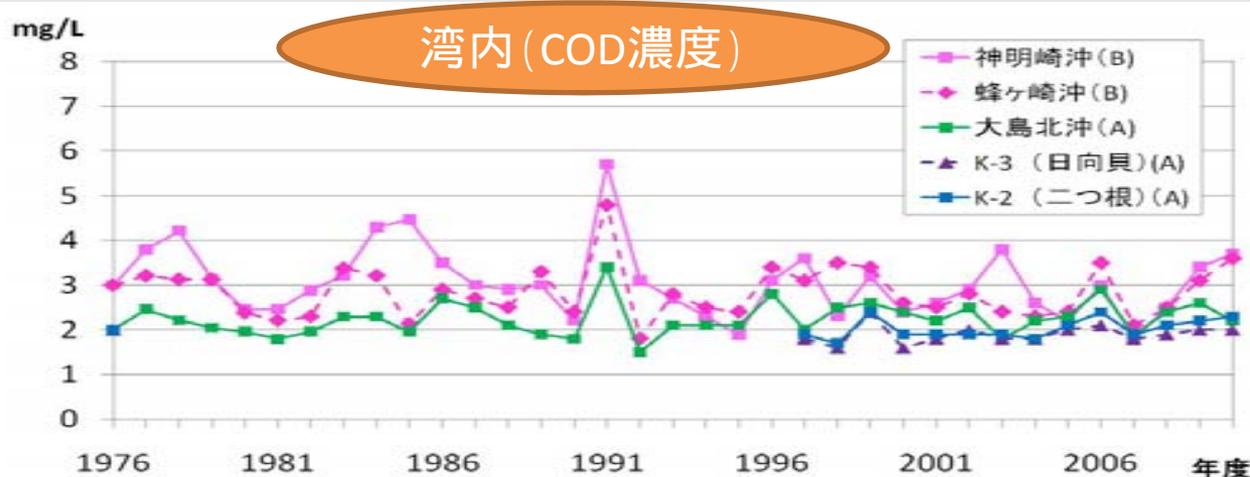
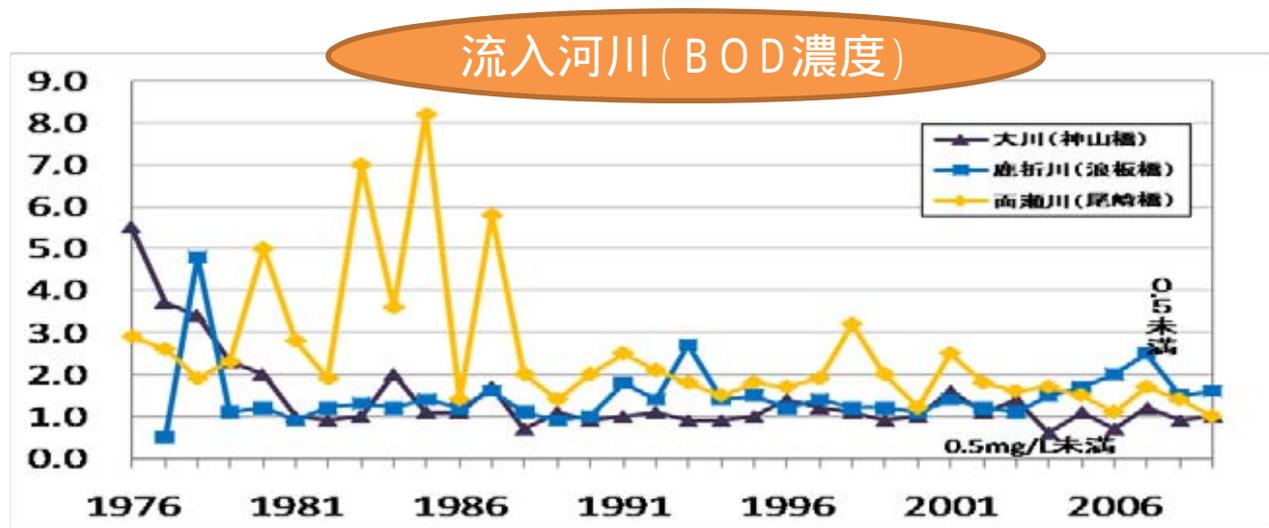


干潟と藻場の面積

(5) 湾内の水質

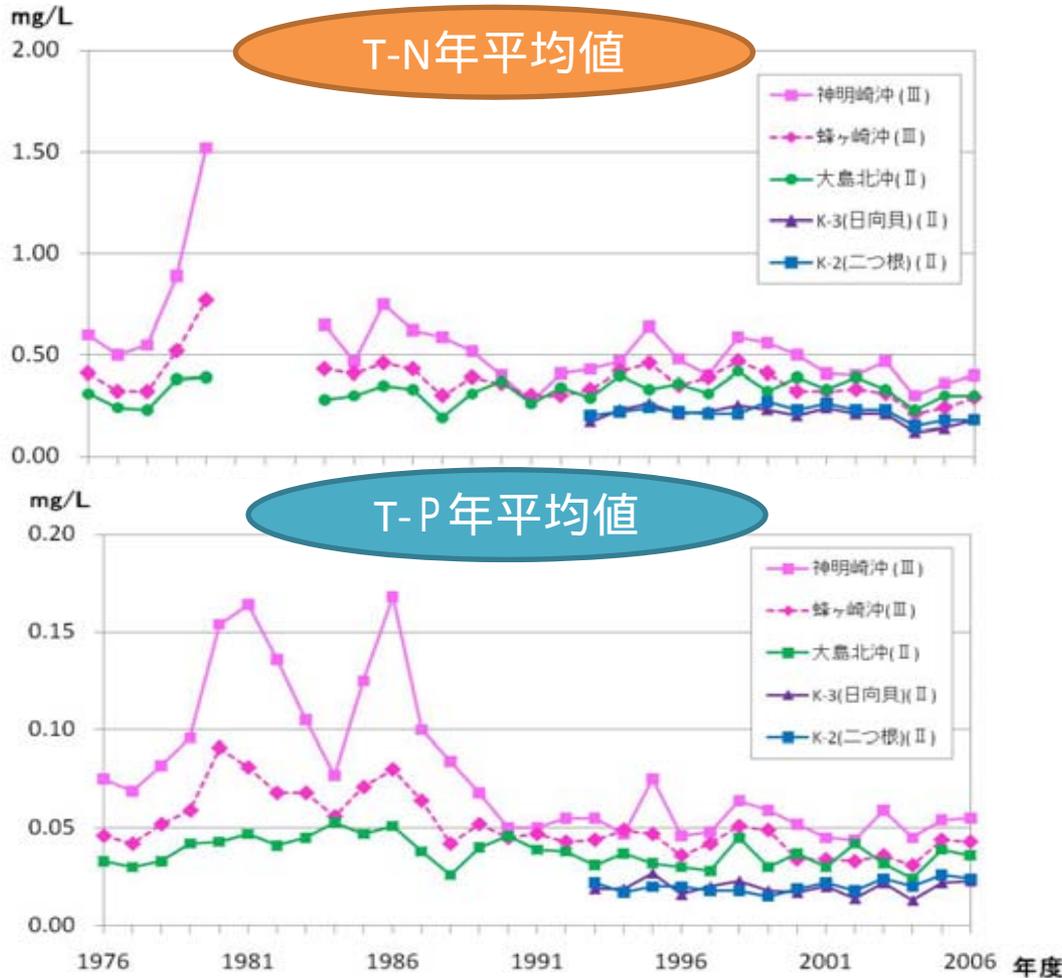
湾内の有機物の推移 (BOD, COD75%値)

- 1970年代後半以降、湾内の水質に経年的な大きな変化はみられない。
- 流入河川の水質との明瞭な関係性はみられない。



窒素、リン濃度の推移

- T-N:1970年代後半に高く、その後減少傾向である。
- T-P:1970年代後半～1980年代に高く、その後減少し1990年代以降安定して推移している。
- T-N,T-P共に湾奥が高く、湾中央から湾口にかけて低下する。

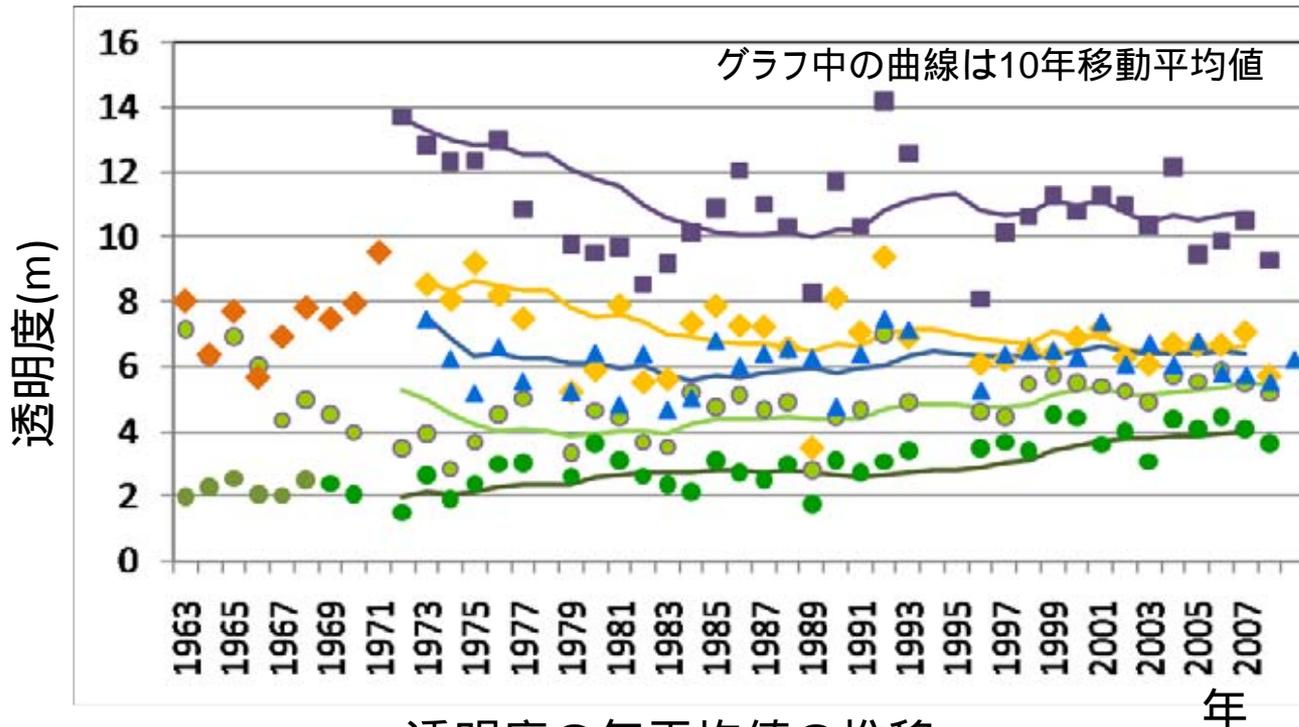


湾奥：神明崎沖、蜂ヶ崎沖
 湾中央：大島北沖
 湾口：K-2(二つ根)
 東湾：日向貝

資料：宮城県

透明度の推移

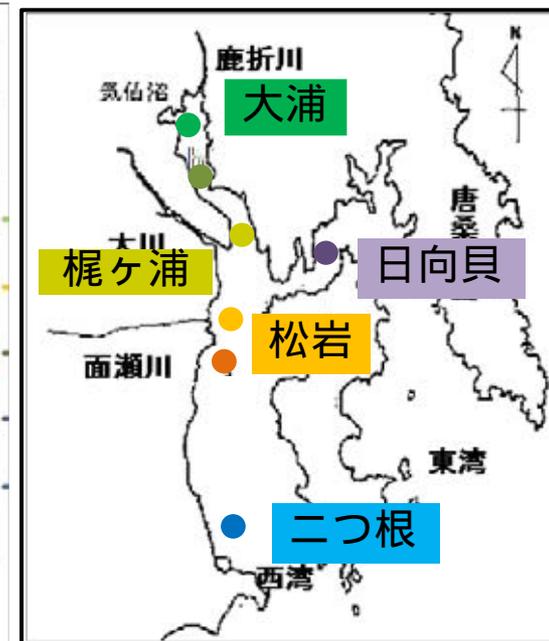
- ・湾奥(大浦)では1960年代前半には透明度が約2mと低く、湾央(梶ヶ浦、松岩)、東湾(日向貝)では1960～1970年代にかけて透明度が低下傾向であった。
- ・1970～1980年代以降は透明度が改善しつつある。
- ・湾央、東湾は1970年～80年代に低下し、現在は横ばいで推移している。



透明度の年平均値の推移

大浦、松岩の1963年～1970年の値については、
近傍の値を参考として示した(地点は地点図を参照)

1991年3月まで:原則月1回調査
1991年4月以降:偶数月1回調査



- 大浦
- 梶ヶ浦
- ◆ 松岩
- 日向貝
- ▲ 二ツ根